

トレボン[®]乳剤

●水稲、野菜、樹木類など幅広い作物で使用できます。

特長： ●チョウ目幼虫、コナジラミ、アブラムシなどのカメムシ目、コウチュウ目など、様々な害虫に効果があります。

トレボンは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	エトフェンプロックス（化管法第1種）・・・20.0%	包装	100ml×60
その他化管法 該当成分	キシレン（化管法第1種）・・・33% エチルベンゼン（化管法第1種）・・・45%		500ml×20
性状	淡黄色澄明可乳化油状液体	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	2 石-III (指定数量1000L（非水溶性）)

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用害虫及び使用方法】

2023年5月24日付内容

作物名	適用場所	適用病虫害名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	エトフェンプロックスを 含む農薬の総使用回数
稲	-	コブメガ	1000倍	60～150 L/10a	収穫14日前 まで	3回 以内	散布	3回以内
		ツマグロヨコバイ ウカ類 イトヨトビ イナゴ類	1000～ 2000倍					
		カミシ類 イヌズグウシ	2000倍					
		ウカ類	300～ 600倍	25L/10a				
		ツマグロヨコバイ イヌズグウシ イトヨトビ	300倍					
		カミシ類	600倍					
麦類	-	ヒメトビウカ アブラムシ類	2000倍	60～150 L/10a	収穫14日前 まで	2回 以内	散布	2回以内
きび	-	アサギカシカメ	1000倍	100～300 L/10a	収穫14日前 まで	3回 以内	散布	3回以内
あわ	-	アワトク アワメガ	1000倍	100～300 L/10a	収穫14日前 まで	3回 以内	散布	3回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
とうき	-	キゲハ	1000倍	100~300 L/10a	幼虫発生期	6回以内	散布	6回以内
とうもろこし	-	アワメガ アヨトウ ツマジロサヨトウ	1000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内
飼料用とうもろこし(子実)	-	アワメガ アヨトウ ツマジロサヨトウ	1000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内
かんきつ	-	コアサメグリ ケキスイ類	1000倍	200~700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
		シシホメグリガ	1000~2000倍					
		チャキイアサシマ	2000倍					
マンゴー	-	チャキイアサシマ	1000倍	200~700 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
ブロッコリー	-	アムシ	1000~2000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
キャベツ	-	アムシ コガ ヨウムシ アブラムシ類	1000~2000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内
はくさい	-	アムシ コガ ヨウムシ アブラムシ類	1000~2000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
だいこん	-	アムシ コガ ヨウムシ アブラムシ類	1000~2000倍	100~300 L/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	3回以内
ねぎ	-	シイモリヨトウ	1000倍	100~300 L/10a	収穫21日前まで	2回以内	散布	2回以内
レタ	-	アブラムシ類	1000倍	100~300 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
すいか	-	アブラムシ類 コジラミ類 ハモンヨトウ ヨウムシ	1000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内
きゅうり	-	アブラムシ類 コジラミ類	1000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
メロン	-	アブラムシ類 コジラミ類	1000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	4回以内	散布	4回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
にがうり	-	アブラムシ類 コジラミ類 ヨウムシ類 カムシ類 ウリノメイガ	1000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
かぼちゃ	-	コジラミ類 ウリハシ	1000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
なす	-	アブラムシ類	1000~ 2000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
		コジラミ類	1000倍					
トマト	-	コジラミ類	1000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
ピーマン	-	アブラムシ類	1000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
okra	-	アブラムシ類 カムシ類	1000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
さやえんどう	-	シイモジヨトウ ヨウムシ ウナギジミ	1000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
実えんどう	-	シイモジヨトウ ヨウムシ ウナギジミ	1000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
さやいんげん	-	ワタアブラムシ ウナギジミ マメノメイガ	1000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
えだまめ	-	マシクカガ シイモジマダラメイガ ダイズサヤマハエ カムシ類 フタスジヒメハシ ウソノメイガ ツメカガ	1000倍	100~300 L/10a	収穫14日前 まで	2回以内	散布	2回以内
		ハスモンヨトウ	1000~ 2000倍					
未成熟さ さげ	-	アブラムシ類	1000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
ばれいし よ	-	アブラムシ類	1000倍	100~300 L/10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内
かんしょ	-	カジロシカバ アブラムシ類 ハスモンヨトウ	1000倍	100~300 L/10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
さといも	-	ハモンヨトウ	1000倍	100~300 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
さといも (葉柄)	-	ハモンヨトウ	1000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
やまのいも	-	アブラムシ類 ヤマトコガ ハモンヨトウ	1000倍	100~300 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
やまのいも (むかご)	-	アブラムシ類 ヤマトコガ ハモンヨトウ	1000倍	100~300 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
豆類 (種実、ただし、だい ず、あずきを除く)	-	マシクカガ アブラムシ類 シロイモジマダラメカガ ダイズサヤマハエ カムシ類 フタスジヒメハムシ ハモンヨトウ ウラナシジミ アズキノメカガ	1000倍	100~300 L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
だいず	-	マシクカガ アブラムシ類 シロイモジマダラメカガ ダイズサヤマハエ カムシ類 フタスジヒメハムシ ハモンヨトウ ウラナシジミ アズキノメカガ ウコンメカガ ツメカガ	1000倍	100~300 L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
あずき	-	マシクカガ アブラムシ類 シロイモジマダラメカガ ダイズサヤマハエ カムシ類 フタスジヒメハムシ ハモンヨトウ ウラナシジミ メカガ類	1000倍	100~300 L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
ほうきぎ	-	ホシキツツシカガ	1000倍	100~300 L/10a	収穫30日前まで	2回以内	散布	2回以内
しょうが	-	ハモンヨトウ	1000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
葉しょうが	-	ハモンヨトウ	1000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
てんさい	-	ヨウムシ	1000～2000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
せんきゅう	-	ウラムシトキ	1000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
モロヘイヤ	-	アザミヤカ類	1000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	1回	散布	1回
あしたば	-	アブラムシ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
ふき	-	コジラミ類 アザミヤカ ヨウムシ	1000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
うど	-	アブラムシ類	1000倍	100～300 L/10a	根株養成期 但し、収穫 45日前まで	2回以内	散布	2回以内
みつば	-	アブラムシ類	1000倍	100～300 L/10a	収穫21日前 まで 但し、伏せ込 み栽培は伏せ 込み前まで	2回以内	散布	2回以内
食用ぎく	-	アブラムシ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	2回以内	散布	2回以内
せり	水田	アブラムシ類	1000倍	100～150 L/10a	収穫30日前 まで	2回以内	散布	2回以内
せり (水耕栽培)	ガラス室等 の施設	アブラムシ類	1000倍	100～150 L/10a	収穫30日前 まで	2回以内	散布	2回以内
みずいも	水田	アザミヤカトキ	1000倍	100～150 L/10a	収穫14日前 まで	3回以内	散布	3回以内
茶	-	チャノコガ チャノトリヒメコハ チャノキイロアザミヤカ	2000倍	200～400 L/10a	摘採21日前 まで	2回以内	散布	2回以内
たばこ	-	タバコガ ヨウムシ	2000倍	25～180 L/10a	収穫10日前 まで	2回以内	散布	2回以内
		アブラムシ類 タバコノミムシ	1000～2000倍					
採種用とうき	-	キアゲハ	1000倍	100～300 L/10a	幼虫発生期	6回以内	散布	6回以内
樹木類(つ つじ類、ポ インセチア、サツ を除く)	-	ケムシ類 シクリムシ類	4000倍	100～700 L/10a	幼虫発生期	6回以内	散布	6回以内
		カゲハ	2000倍					

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
つつじ類	-	ケムシ類 シャクトリムシ類	4000倍	100~700 L/10a	幼虫発生期	6回 以内	散布	6回以内
		蛾ガハ	2000倍		-			
		ツツジゲンハイ						
ポインセチア	-	ケムシ類 シャクトリムシ類	4000倍	100~700 L/10a	幼虫発生期	6回 以内	散布	6回以内
		蛾ガハ	2000倍		-			
		コナジラミ類	1000倍					
ツツジ	-	ケムシ類 シャクトリムシ類	4000倍	100~700 L/10a	幼虫発生期	6回 以内	散布	6回以内
		蛾ガハ	2000倍					
		クロマダラツツジジミ	2000~ 4000倍					
宿根かすみそう	-	シロイモシヨトウ	1000倍	100~300 L/10a	-	6回 以内	散布	6回以内
		ヨトウムシ	2000倍					
りんどう	-	ヒラズハナアザミマ	2000倍	100~300 L/10a	-	6回 以内	散布	6回以内
きく	-	アブラムシ類	2000倍	100~300 L/10a	発生初期	6回 以内	散布	6回以内
カーネーション	-	アブラムシ類	2000倍	100~300 L/10a	発生初期	6回 以内	散布	6回以内
ゆり	-	アブラムシ類	2000倍	100~300 L/10a	-	6回 以内	散布	6回以内
トルコギキョウ	-	ハスモンヨトウ	1000倍	100~300 L/10a	-	6回 以内	散布	6回以内
水田作物、畑作物(休耕田)	ヨシ、ササ、ススキ、セイタカアワダチソウ等の多年生雑草が優占している休耕田	かみムシ類	2000倍	60~150 L/10a	-	3回 以内	散布	3回以内

使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきることを。
- (2) 蚕に対して長期間毒性があるので、近くに桑園がある場合には絶対に桑葉にかからないようにすること。
- (3) 散布器具、作業衣等は桑用と必ず区別すること。

- (4) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - 1) ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
 - 2) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (5) 本剤のかんきつ、茶での散布は、場合によりハダニ類がふえることがあるので注意すること。
- (6) ねぎのシロイチモジヨトウの防除に使用する場合は、食入前の若令幼虫期に散布すること。
- (7) きくのアブラムシ類への使用にあたっては、一部地域のワタアブラムシでは効果が劣ることがあるので使用をさけること。
- (8) 採種用とうきに使用する場合は、根部及び葉を収穫せず、種子の収穫に限ること。
- (9) 水耕栽培に使用する場合は、本剤を使用した施設からの廃液をかんがい水路、排水路、河川等には絶対に流さず、適切に処理すること。
- (10) 本剤を本田の水稻に対して希釈倍数 300～600 倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型速度連動式地上液剤少量散布装置を使用すること。
- (11) 本剤は自動車等の塗装面に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないよう注意すること。
- (12) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。とくに適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- (2) 本剤は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 原液は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
- (5) 作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをすること。
- (6) 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（甲殻類、冷水魚）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池等周辺での使用はさけること。なお、比較的低濃度でも魚が平衡失調を起こすおそれがあるので、十分注意すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

危険物第四類第二石油類に属するので、火気には十分注意すること。

貯蔵上の注意事項

火気をさけ、直射日光が当たらない低温な場所に密栓して保管すること。